
メンバーアウトドアヴィレッジるもい構想

2022.10月

留萌市

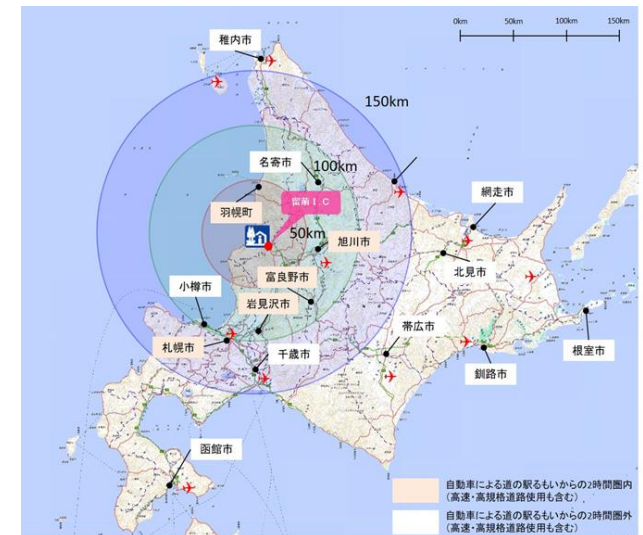
1. 背景

留萌市を中核とした留萌振興局管内は、暑寒別天売焼尻国定公園やサロベツ原野をはじめとする雄大な自然資源を有するだけでなく、札幌や旭川などの大都市圏から半径150km圏内に位置し、高規格幹線道路深川留萌自動車道の全線開通により、道央圏、道東圏からの道路アクセスが飛躍的に向上し、さらなる誘客への期待が高まっている。

新型コロナウイルス感染症の影響を境に、人々の生活様式、旅行形態、観光スタイルが変化し、本地域の持つ特質性、ポテンシャルを最大限発揮させるには、**これまでの海水浴客中心の体験型観光から、本格的なアウトドア観光を軸とした観光事業の推進に磨きをかけ、恵まれた環境を生かした「稼ぐ観光」にシフトすることが重要であり、観光ステージの大きな転換期に立っている。**

JR留萌本線の廃止が決定し、車での移動と快適な休息環境、地方創生と観光を加速する拠点として、**JR駅に隣接した「道の駅るもい」が、新たな誘客のシンボルとしての役割を担い、「稼ぐインフラ」施設を整備し、民間事業者の参入を図りながら、新たな起爆剤としての政策展開を図ること**で、留萌市、留萌管内がアウトドアによる観光誘客を「共創」する環境整備や、推進に向けた機運醸成が急務である。

留萌市では、国内屈指のアウトドアメーカーであり、地方の活性化にも大きく寄与され、これまで他地域での実績がある(株)モンベルと包括連携協定を締結し、モンベルが留萌地域の活性化と、本市の現状、将来を見据えて策定、提言いただいた「観光グランドデザイン」の実現に向け、モンベルの知見を取り入れた**アウトドアを核とした観光推進の拠点施設となる「モンベルアウトドアヴィレッジるもい(仮称)」を道の駅るもい内で整備を推進するため、本構想を策定するものである。**



【概要版】留萌市観光グランドデザイン

目的

留萌市を中心に留萌振興局管内全体を見据えて、アウトドア資源の現状や課題を調査し、管内全体に散らばる自然資源を掘り起こし、留萌市ならびに管内ならではの地域特性を活かしたアウトドアツーリズムによる観光振興策の提案

アウトドア観光の発展を目指す上で、留萌振興局管内における留萌市の位置づけ・役割の明確化。留萌振興局に属する近隣自治体と連携した広域観光の推進に必要な事業検討

留萌市観光グランドデザイン 基本方針 コンセプト

雄大な自然が楽しめる留萌エリアの“港”となるアウトドア観光の拠点

課題

1. アウトドアを気軽に楽しめる場が少ない

- ・自然と触れ合いながらアウトドア・アクティビティを楽しめる場所が限定的
- ・整備不足や情報発信の不足

2. 来訪者が気軽に宿泊・滞在できる施設が不足

- ・来訪者が周囲の自然や景観を楽しみながらもゆったりとした時間を過ごし、利用者の多様なニーズに対応できる宿泊施設が不足(留萌振興局エリア全体)

3. 広域連携を進める上で、核となる拠点が不足

- ・ゲートウェイである留萌市に、留萌振興局管内に点在する魅力的な自然資源を生かし、アウトドア誘客を進めるための発信基地が不足

4. アウトドアツーリズムの受け入れ態勢の不足

- ・各種観光マップやウェブサイト等での情報発信に対し、看板や標識等の整備が不十分

5. 自然資源、観光資源が面的なつながっていない

- ・“点”の資源を“面”で捉えていない

施策

1. フィールドの整備

- ・アウトドア・アクティビティを楽しむフィールドとしての磨き上げ、課題整理(老朽対策、楽しみ方の提案、導線標識の確保、通年活用など)
- ・サイクリング(ポタリング)ルートの設定



2. アウトドア観光の核となる施設整備

- ・留萌振興局管内のアウトドア観光の拠点施設として、ゆったりとした宿泊滞在可能な空間や、全体のフィールドやツアー等の観光情報の集積、アウトドア用品の購入、体験可能な施設を、道の駅るもい、船場公園に整備



3. 広域周遊型のアウトドア観光の推進

- ・留萌振興局管内全体エリアとして発信するための、広域でのサイクリング・アクティビティルートの設定と「ジャパンエコトラック」を活用した広域イベントの展開

4. プロモーション展開

- ・モンベルとの連携によるプロモーション展開(モンベルクラブの活用や、フレンドエリア登録など)

モンベルとの包括連携協定にもつながるアウトドアの基本理念の実現

- ①自然体験の促進による環境保全意識の醸成
- ②野外体験を通じて生きる力をはぐくむ
- ③自然体験の促進による健康増進
- ④防災意識と災害対応力の向上
- ⑤エコツーリズムの促進により地域経済の活性化
- ⑥農林水産業の活性化
- ⑦高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進

効果

- ・本格的なアウトドア・アクティビティを目的にした観光誘客の増加
- ・地域住民のアウトドア機運の醸成、健康増進
- ・道の駅るもいの充実、ゲートウェイ機能の強化
- ・留萌振興局管内エリア全体の活性化
- ・地域の自然資源の再認識

+

2. 全体コンセプト

① 雄大な自然が楽しめるアウトドア観光の拠点づくり

本格的かつ唯一無二のアウトドアフィールドが留萌管内にあることから(暑寒別天売焼尻国定公園、天塩川、天売島、日本海オロロンラインのロングサイクルルートなど)、その起点、拠点に位置する留萌市において、管内広域も含めたアウトドアフィールドの案内や情報発信、アウトドア用品の紹介や購入、体験型コンテンツの企画、運営ができるビジターセンター機能を整備し、さらには、市内における様々なアウトドア・アクティビティを、市民も含めて幅広く気軽に体験できる環境を整えます。また、アウトドアは季節を問わずに楽しめるアクティビティであるため、海水浴を中心とした夏の一時的な通過型観光からの脱却と、同エリア内に滞在型施設の整備により、通年での誘客に繋げていきます。



② 道の駅るもいエリアの魅力向上

道の駅るもいおよびその背後に広がる船場公園は、国道、高規格幹線道路、また、JR留萌駅にも隣接する交通の要所に位置し、「重点道の駅」の認定と、道の駅開業後、集客の核となっている。JR留萌本線が廃止となり「旧駅前」を通った市街地との人の流れが生まれることが期待でき、7.8haに及ぶ広大な面積を生かし、市民向け観光客向けをゾーニングしながら、アウトドア観光の核として、観光客の目的地へと発展させ、ゆっくりと滞在しながら旅のプランを練ったり、くつろいだりできる上質な空間としてのさらなる魅力の向上に繋げていきます。

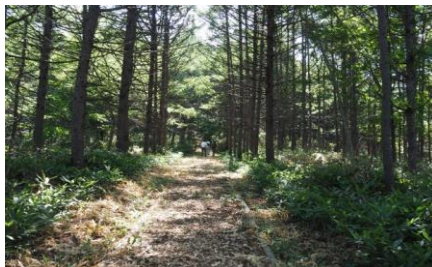


2. 全体コンセプト

③ カーボンニュートラル、環境保全意識向上

アウトドアに身を置くことで、自然の大切さや恵みを実感できるように、再生可能な自然エネルギーの活用や、トレッキング、アウトドアと絡めた地域での森づくりの推進、風倒木、間伐材などの木質バイオマス資源の有効活用、ロゲイニングなどの野外スポーツや、脱炭素ポイントの付与により、るもい型のエコでよりサステイナブルなツーリズムの発案により、幅広い年齢層が自然と環境を体感できる取り組みを進めていきます。

※ロゲイニング:地図、コンパスを使って、山野に多数設置されたチェックポイントをできるだけ多く制限時間内に回り、得られた点数を競う野外スポーツ。



④ 7つのミッションを実践できる施設

モンベルが掲げるアウトドア・アクティビティが持つ社会的使命として、7項目を実践できる施設内容を目指します。

基本的な考え方(7つのミッション)

SINCE 1975
mont-bell

1. 自然体験の促進による**環境保全意識**の醸成
2. 野外体験を通じて**生きる力**をはぐくむ
3. 自然体験の促進による**健康増進**
4. **防災意識と災害対応力**の向上
5. エコツーリズムの促進により**地域経済の活性化**
6. **農林水産業の活性化**
7. **高齢者、障がい者等**の自然体験参加の促進

留萌市のポテンシャルを引き上げ、今後進むべき施策に合致。

3. 施設イメージとゾーニングの概要

「モンベルアウトドアヴィレッジるもい(仮称)」(以下 **アウトドアヴィレッジるもいに省略**)は、道の駅るもい内における広大な敷地を活用し、留萌市又は留萌振興局管内におけるアウトドアを進める拠点施設として、管内全体のフィールドやツアーなどの観光情報の集積、発信のほか、情報だけではなく実際にアウトドア体験や、アウトドア商品の購入、さらには、本施設からの発着できる周遊ルートの設定や、道路を挟んで留萌港を眼下に、休憩、滞在、また、アクティビティの体験可能な環境を整備し、来訪者や市民が気軽に体験できる「楽しみ」を提供します。

また、宿泊できる滞在型施設を併設し、キャンプステイのほか既存の「屋内交流・遊戯施設」とも連携しながら、親子や家族連れに優しく、安心して時間の過ごせる環境を提供します。



総面積7.8haの地区公園
(現在の道の駅るもい)

3. 施設イメージとゾーニングの概要

● 拠点施設のイメージ(新設)



(写真は南富良野町道の駅複合商業施設内 モンベル南富良野店)

①アウトドア・アクティビティ拠点施設(ビジターセンター棟) 1,550㎡

アウトドア観光案内、宿泊受付、ピナクル(クライミング体験)、アウトドア関連商品(登山、キャンプ、カヤック、サイクリング等)の展示、販売のほか、機能性の高い農業、林業、漁業者向けの作業着も取扱うなど、フルラインナップでの店舗構成とします。

3. 施設イメージとゾーニングの概要

● 拠点施設のイメージ(新設)



(写真はモンベルアウトドアヴィレッジ本山内のコテージ棟)

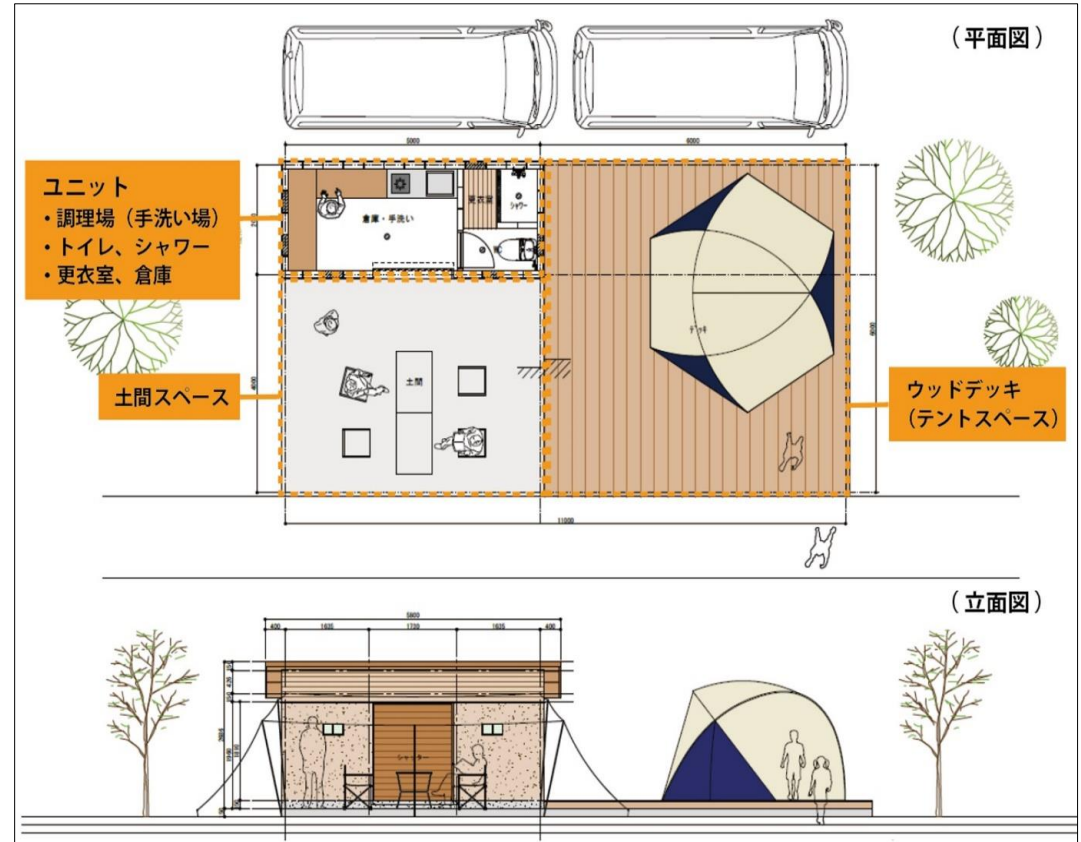
②コテージ棟(長屋タイプ 1棟6室×4棟 計24室) 約3,600㎡(建物のみ)

※上記写真は1棟2室タイプ

ベッドルーム2名用×2部屋／リビングダイニング／簡易キッチントイレ／シャワー／BBQができる
デッキテラス／テントが設置できる前庭／各棟に駐車場。収容定員:4～6人/1室

3. 施設イメージとゾーニングの概要

● 拠点施設のイメージ(新設)



(本施設については、(株)モンベルで商標登録出願中につき、取扱注意)

③ユニット型キャンプ施設 10棟 約700㎡(建物のみ)

調理場、倉庫、シャワー、トイレ、更衣室がある小屋型。倉庫内には、テント、タープ、焚火台、調理器具等のレンタル品を常設。ウッドデッキ上でテントを張り宿泊。普通駐車場2台分のスペースあり。

3. 施設イメージとゾーニングの概要

● 拠点施設のイメージ(新設)



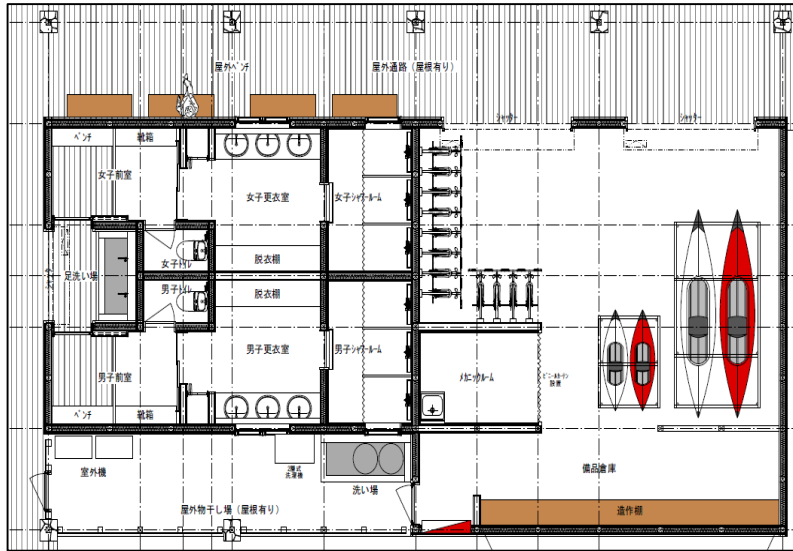
④ デイキャンプ施設

オートキャンプサイトを15サイト、RVパーク(電源機能付き)を10サイト、また、デイキャンプ用に炊事棟2か所、トイレ、シャワー兼用の炊事棟1か所を設置。

周辺への植樹、植栽を施すことで、公園とは違った異空間を街なかの公園内に演出する。

3. 施設イメージとゾーニングの概要

● 拠点施設のイメージ(新設)



⑤パドル体験施設 270㎡

更衣室、シャワールーム、トイレ、洗い場、カヤック備品関係を保管する艇庫、別途乗艇用浮棧橋

3. 施設イメージとゾーニングの概要

● 拠点施設のイメージ

レストラン(民間誘導)

本施設については、「地元食材のPR」と「地産地消」を推進する施設として、来訪者の休憩場所や、地域住民の憩いの場として開設するほか、キャンプ場やコテージ利用者へのバーベキュー等の食材提供にも対応できる機能を有し、運営面において民間企業のノウハウを引き出す必要があり、民間での施設誘導を検討します。

(新たな設備投資については、地元企業応援基本条例で支援措置も検討)

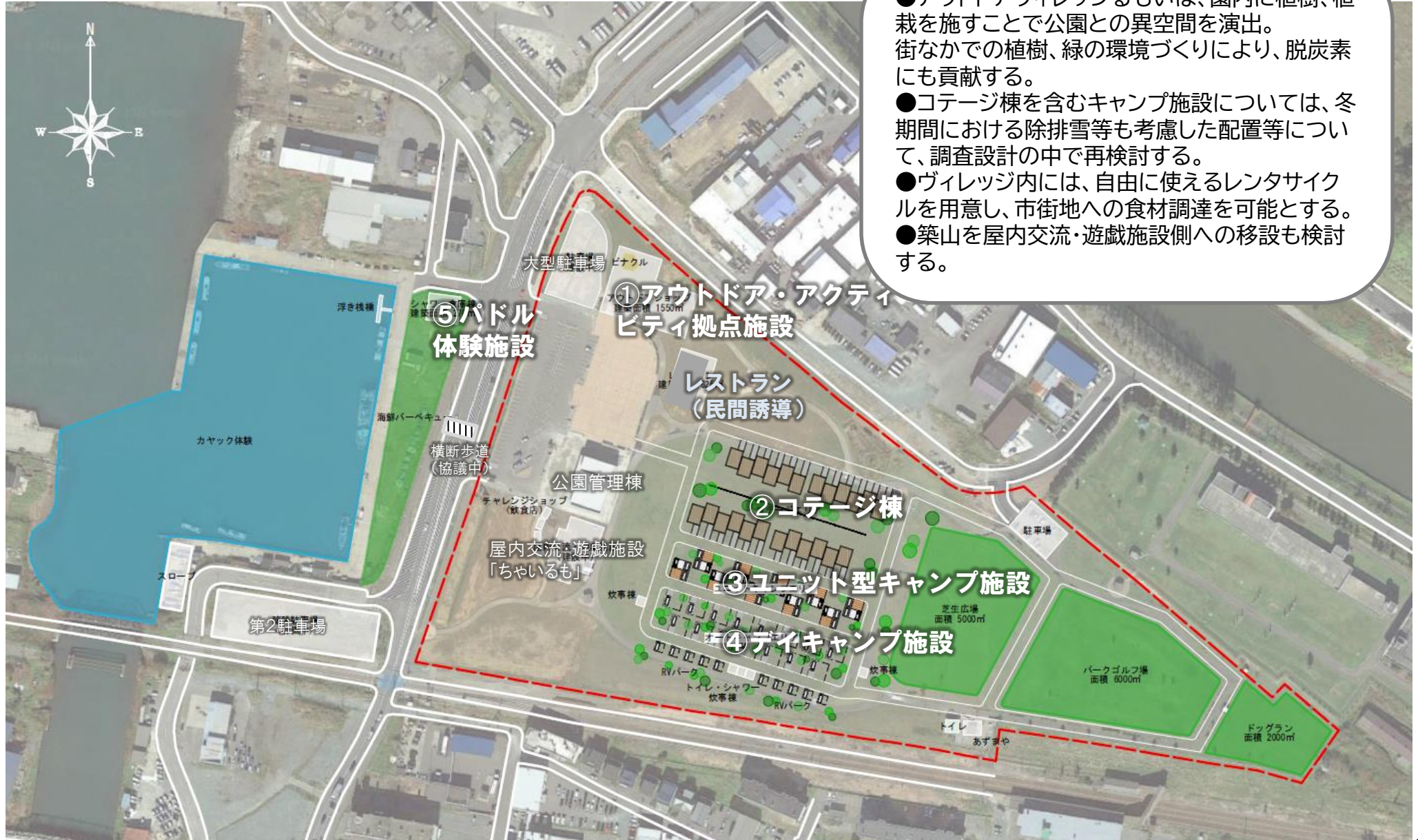


※イメージ

(写真はモンベルアウトドアヴィレッジ本山内のレストラン棟)

3. 施設イメージとゾーニングの概要

● ゾーニングのイメージ



3. 施設イメージとゾーニングの概要

● 既存施設の用途・機能変更(案)

・芝生広場(多目的広場)

現在の多目的広場に滞在型施設を整備し機能変更併せ、エリアの変更と面積の縮小及び、築山の解体(移設)。敷地内に車両通行可能な園路整備を実施。

・駐車場

現在の大型専用駐車場(国整備)を普通車兼用とし、大型車については、今後整備予定の第2駐車場(道路向かい)にシフト。

・管理棟

産直販売のほか、民間でのレストラン整備が難しい場合は、キャンプ場、コテージ利用者へのバーベキュー等の食材提供にも対応できる機能へ用途を一部変更。休憩機能、観光案内機能、貸館機能はそのまま維持。(⇒将来的には、産直販売、食材提供機能も含めて、道の駅指定管理業務で対応)

・船員休憩施設、東岸船溜まり

パドル体験施設整備に併せ、必要性の再検討と漁家との調整が必要。東岸活用にあたっては、夏季限定での試行からスタートし、本格実施の段階で、現行利用者との調整、代替岸壁を確保する。

・その他

道の駅、留萌港、第2駐車場の一体的運用を図るため、国道を横断するための横断歩道の設置に向け、警察と協議中。(歩行者用信号機については、施設開業後の利用状況も見ながら、必要性を判断した上で、再協議)また、道の駅前の国道231号線約900mの無電柱化も計画。

4. 整備手法と財源、運営

●整備手法、財源

アウトドアヴィレッジるもいを構成する新たな施設整備については、公設民営方式により市施設として整備する。財源については、国補助(地方創生拠点整備交付金など)や、道補助(地域づくり総合交付金)のほか、過疎債、寄附金など、可能な限り財源確保に努めるものとする。

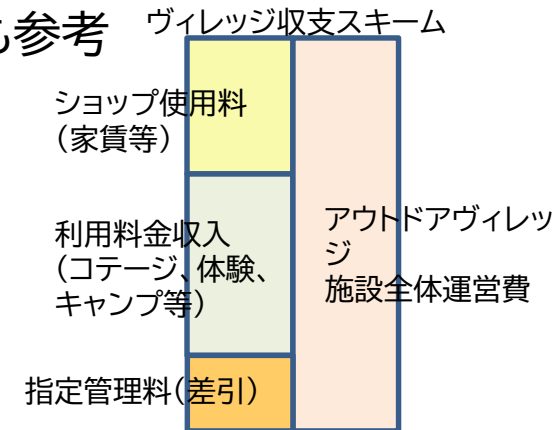
また、本プロジェクトに対し、市外企業の参画を高め、企業版ふるさと納税により支援を募っていく。

年次	事業内容	財源
3～5か月	調査設計 (施設配置、植栽、キャンプ場概要、施設給排水・電気設備、改変面積・造成経費の算定など)	一般財源(又は寄附金)
1年	基本・実施設計、地質調査	過疎債
1～3年 (見込み)	本体工事、外構・園路工事、植栽、備品購入等 (アウトドア・アクティビティ拠点施設、キャンプ施設、パドル体験施設)	国交付金(地方創生1/2、上限5億) 道補助金(地域づくり総合交付金) 過疎債、一般財源(又は寄附金)

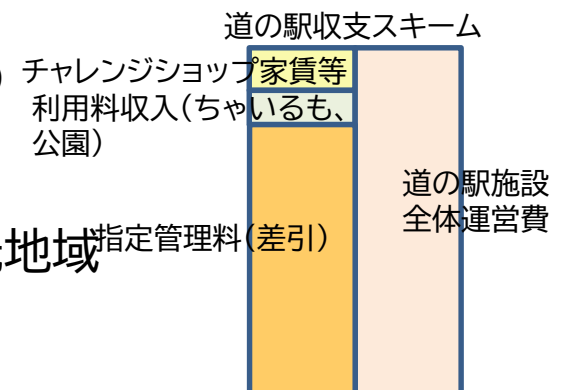
4. 整備手法と財源、運営

●運営

アウトドア・アクティビティ拠点施設をはじめ、アウトドアヴィレッジるもいを構成するキャンプ施設及び体験施設の管理運営については、これまで、全国での地方創生やアウトドアに関する豊富な知見を有するほか、モンベル会員への情報発信や都市部企業をはじめとした誘客を図るとともに、地元若者や主婦などをはじめ、新たな雇用を生み出すことも期待できることから、株式会社モンベルによる管理・運営なども含め、モンベルが進出している各自治体の事例も参考に、検討を進めていく。モンベルは、アウトドアショップでの販売と共に、本格的なアウトドアユーザーだけでなく、初心者や高齢者など、専門的なアウトドアの啓発、紹介や、アウトドア体験型観光の実施、発信、さらには同社が行う野外活動MOC(モンベル・アウトドア・チャレンジ)との連携などを行う。また、アウトドアショップに係る施設使用料は、既存テナント同様に徴収し、施設の維持管理費に充当する。



一方、船場公園管理棟や屋内交流・遊戯施設「ちやいるも」などの既存の「道の駅るもい」施設については、道の駅条例に基づき、留萌市の観光の拠点として市や管内の観光情報の集約、発信のほか、施設を利用した飲食、特産品等の開発、提供など、一体的な管理運営へ移行しアウトドアヴィレッジるもい構想の実現に向け、道の駅を拠点とした観光地域づくりを実践する団体、企業を公募し、指定管理運営へ移行する。
(令和5年度から予定)



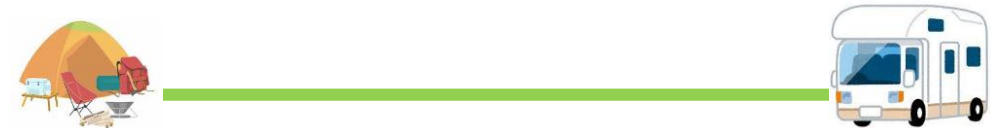
道の駅内での管理運営ゾーンの役割分担

道の駅るもい登録エリア



道の駅るもい(既存施設)
(管理棟、屋内交流・遊戯施設「ちや
いるも」、チャレンジショップ、芝生
広場)

地域情報、特産品、子ども・健康



アウトドアヴィレッジるもい
(道の駅エリア内)
(アウトドア・アクティビティ拠点施
設、キャンプ施設など)

アウトドア



5. アウトドアライフスタイルの提案と市民応援組織

地元アウトドア愛好家や、若年層、女性などによりアウトドアを通じたネットワークを形成し、身近で取り組みやすいアウトドア体験会の開催や、メンバーが実施するMOCイベント(メンバー・アウトドア・チャレンジ)などを市内で開催しながら、生活の一部にアウトドアを取り入れ、豊かなライフスタイルを提案する。また、メンバー進出の機運を高めるため、市民を中心にメンバー進出に向けた機運の醸成を図っていく。

<気軽に取り組めるアクティビティやMOCイベント可能な企画>

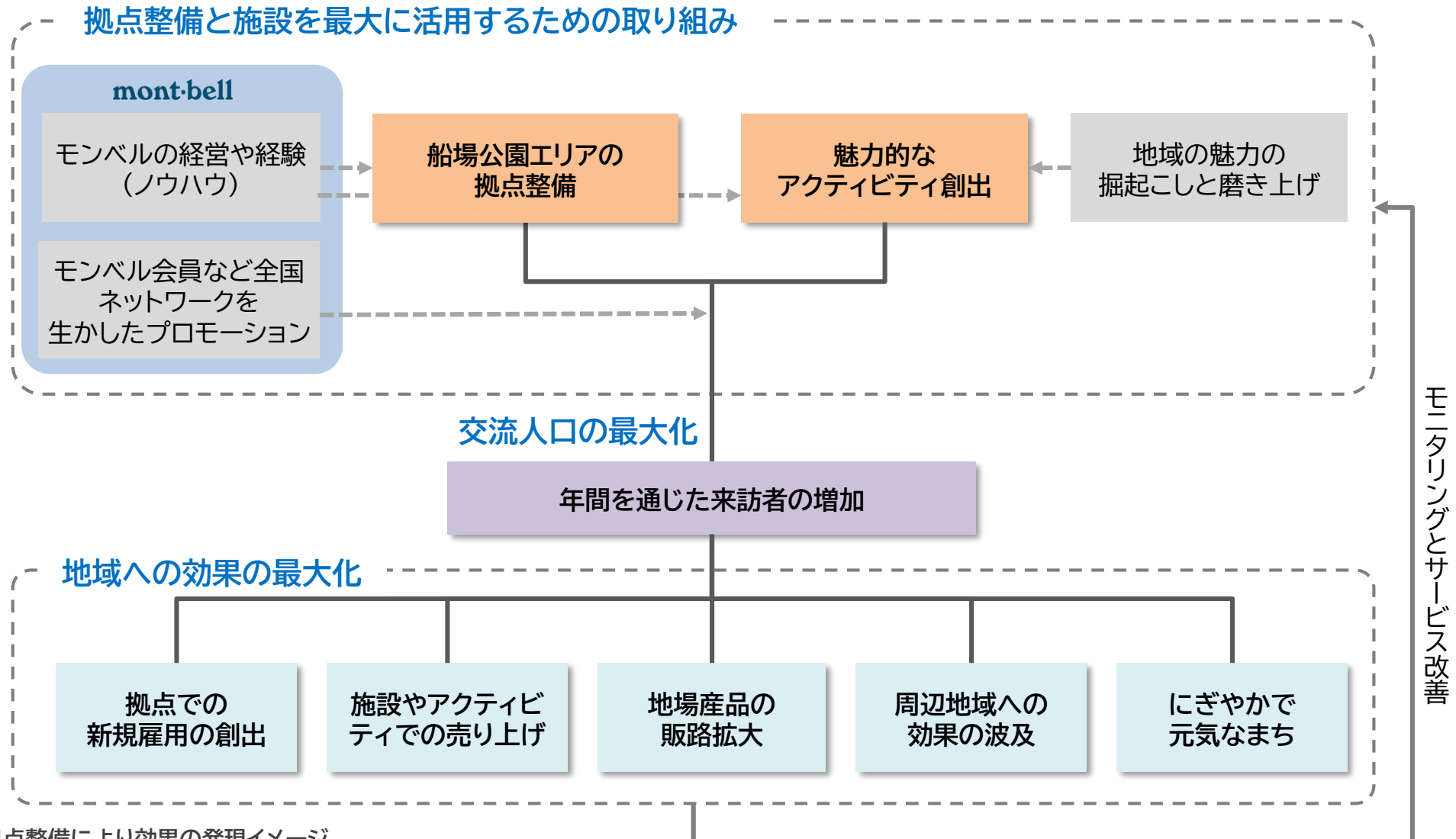
アクティビティ	留萌市内	留萌振興局管内
トレッキング	登山講習会(マサリバツ望洋の森、るるもっぺ憩いの森)	暑寒別岳登山、増毛山道トレッキング
サイクリング	留萌市内ポタリング、河川敷ルート	オロロンラインツーリング
パドルスポーツ	カヤック、SUP体験(留萌港、留萌ダム、浜中海岸)	天売島シーカヤック、天塩川ダウンリバー
キャンプ	講習会(神居岩総合公園)	初山別 天体観測&キャンプ、天売島カヤック&キャンプ
自然観察	バードウォッチング等入門(るるもっぺ憩いの森)	天売島バードウォッチング 焼尻島フラワーハイキング
スノーシュー	スノーシュー体験(マサリバツ望洋の森、るるもっぺ憩いの森、礼受牧場)	天売島スノーシュートレッキング

会員、参加、商品購入等

メンバー進出応援(市民)

6. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

アウトドアの一大拠点形成と地域の魅力の掘り起こしや磨き上げにより、拠点施設を最大限に活用することで、年間を通じた交流人口の増加に繋げ、拠点施設はもちろん、施設周辺の市内の飲食、物販施設や、地域産品の売り上げ増加、さらには、道内外から来訪者が訪れる事を考えると広範囲に及ぶものと想定されます。単に拠点整備だけでなく、道の駅と連携し、市内外の施設の情報をワンストップ集約、発信することにより、地域への効果の最大化を目指します。

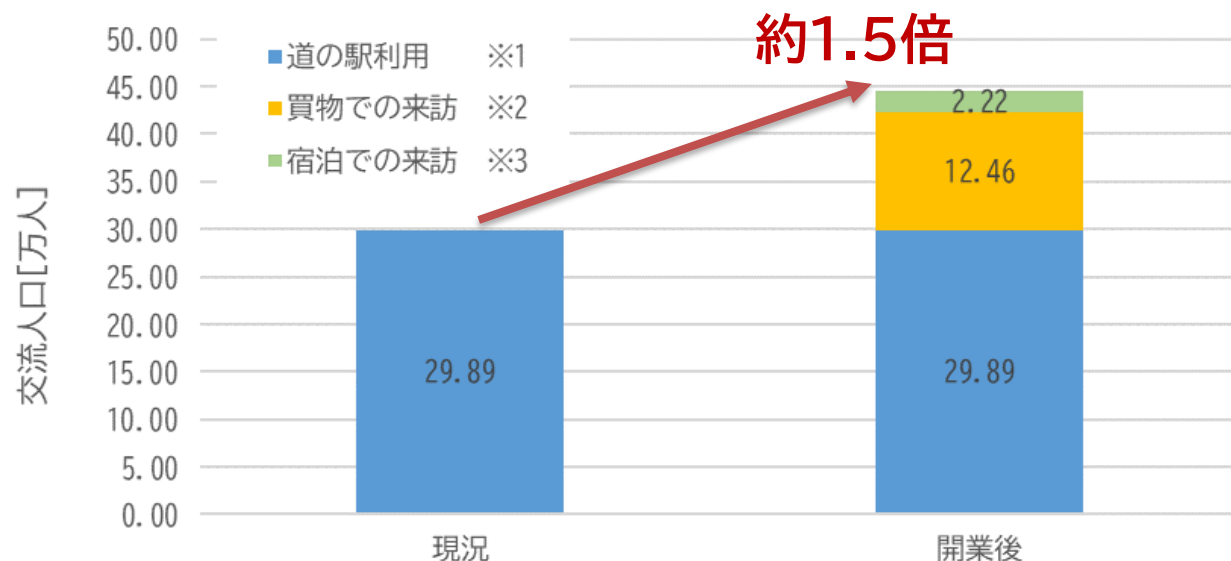


図：拠点整備により効果の発現イメージ

6. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

◇ 交流人口の算定

「道の駅るもい」における現状の入込数は約29.9万人であるが、アウトドアヴィレッジるもいの開業では約44.6万人まで増加し、**約49%(14.7万人増)**の交流人口の拡大が見込まれます。



※道の駅その他、海水浴等への波及を含めると1.5倍～2倍程度の交流人口拡大が見込まれる。

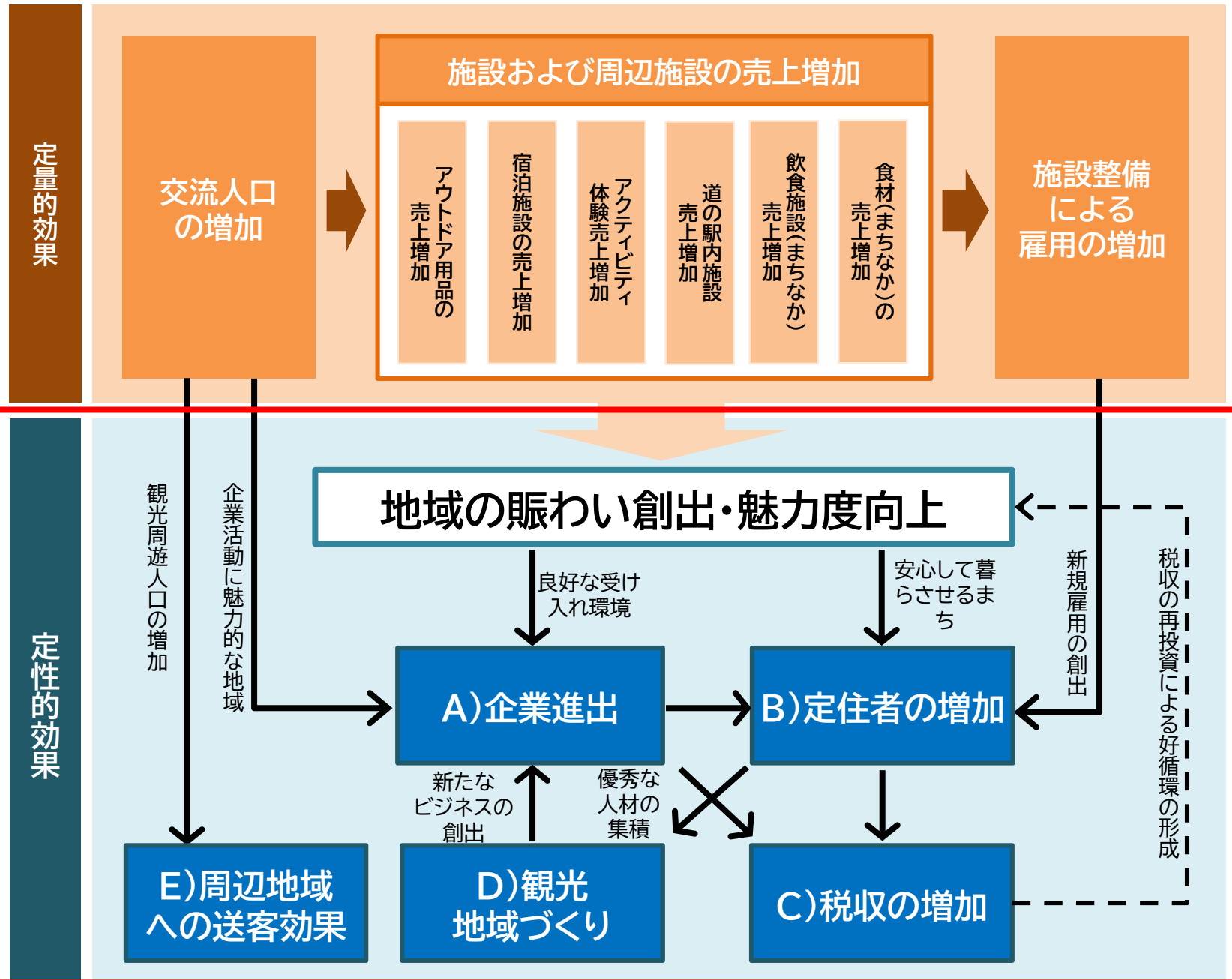
※1 道の駅現行入込数(R3)

※2 2時間圏域で道の駅るもいにアクセス可能な市町村を基本に、来訪想定者数を算出(年2回程度来訪)

※3 滞在型施設での宿泊想定 2.2万人 (宿泊施設の稼働日数、稼働率、宿泊室数、帯同人数4名を設定し算定)

※コテージは年間稼働(稼働率49.1%)、その他キャンプ施設は4～10月稼働(平均稼働率16.8%)を想定。

6. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果



6. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

A) 企業進出

「道の駅るもい」におけるアウトドアヴィレッジるもいの整備によって、交流人口が増加し、アウトドア分野や観光分野等の新しい観光需要が発生することが想定され、このような新たな需要を取り込み、来訪客のニーズに合わせた新たな企業、民間投資が、道の駅るもい周辺エリアに進出することが期待されます。

アウトドア関連企業



キャンプやアクティビティ等を目的とした観光客が増えることから、アウトドア用品やアウトドア用品のメンテナンスにおける需要が増加。また、手ぶらで気軽に仲間や家族と落ち着いたグラマラスな時を過ごす「グランピング」施設なども需要が高まっており、新たな宿泊体験など、相乗効果が期待できます。

ワーケーション



アウトドアヴィレッジるもいを中心に、都市部企業におけるワーケーションでの滞在を呼び込むことにより、コワーキングスペースの提供やカフェ・飲食に関連する企業の増加が期待されます。また、住環境とワーキングスペースが両立するバックパッカーズやゲストハウスなどの簡易宿泊施設などの進出も期待されます。

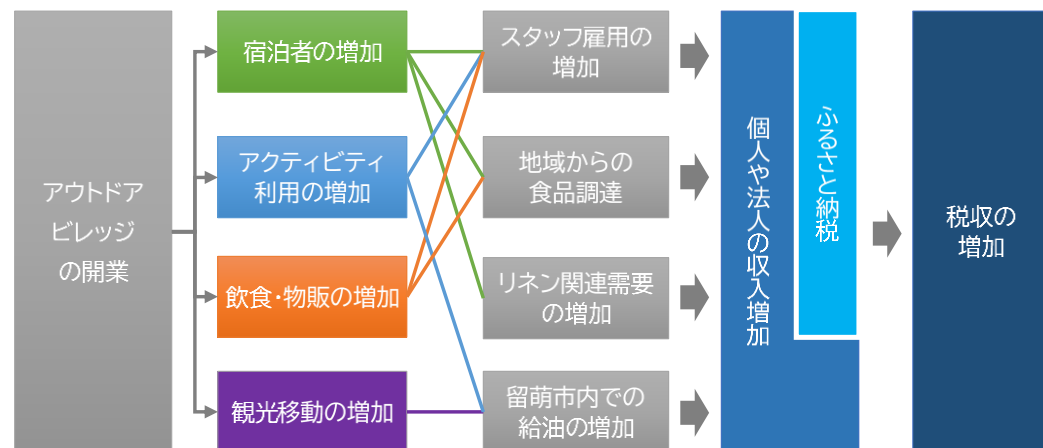
6. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

B) 定住者の増加

開業に伴い、施設運営のために必要となる地元雇用が新規に創出できます。また、アウトドアヴィレッジるもいの整備に伴う新規企業の進出によっても雇用の増加が期待されます。雇用の増加は安心して暮らせる生活基盤を市民にもたらすことにより、留萌管内の定住者が増え、人口増加効果が発現すると期待されます。

C) 税収の増加

施設スタッフの新規雇用や周辺施設の消費の増加から雇用者の所得が増加し、市内経済への還流、留萌市の税収の増加が期待されます。また、アウトドアヴィレッジるもいでの宿泊や体験など、「コト消費」をふるさと納税の返礼品として供給することにより、ふるさと納税額の増加や、留萌市での観光消費の拡充、関係人口の創出なども期待されます。



6. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

D)観光地域 づくり

開業に併せ、アウトドアや観光分野に精通した人材や情報を地域に集積させ、地域の新たな産業創出につなげることが期待されます。

これまでの公的補助を財源とした非営利的な観光の側面から一步脱却し、観光商品の造成等により、「稼ぐ観光」を志向しながら、持続的かつ変化や観光ニーズに柔軟に対応した「観光地域づくり組織(DMO)」の設立により、地域マネジメントを行う機運の醸成により、道の駅るもいを拠点に、以下の取組へと波及することが期待できます。

例)

- 観光地域づくりによる多様な関係者の合意形成
- 各種データ等の継続的な収集・分析、データに基づくブランディングの策定
- 地域の魅力の向上に資する観光資源の磨き上げや域内交通を含む交通アクセスの整備、多言語表記等の受入環境の整備等の着地整備に関する地域の取組の推進
- 関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整・仕組みづくり、プロモーションなど

E)周辺地域 への送客効果

観光周遊人口の増加を誘発し、施設近隣に限らず、留萌管内の観光地における送客効果をもたらすことが想定されます。道の駅るもいやアウトドアヴィレッジるもいと留萌振興局管内の市町村の道の駅と連携した情報発信を行う事で、留萌振興局管内の市町村への効果波及が期待されます。

7. 全体スケジュール(予定)

